



モデルコース

▶羽衣コース 所要時間 60分

宮城公園出発 ▶▶▶▶ ムラヤー解散

宮城公園①→ウスクガー③→ウミチムン③→
デーコク③→東之御嶽④→ノロ殿内④→
上之御嶽④→ムラヤー⑦

▶綱曳きコース 所要時間 90分

ムラヤー出発 ▶▶▶▶ 宮城公園解散

ムラヤー⑦→ノロ殿内④→上之御嶽④→
東之御嶽④→デーコク③→ウスクガー③→
イエーヌミー⑤→上之井⑧→中之井⑨→
ウガンモー②→サクヌカー⑩→宮城公園①

※数字はウラ面のマップの番号です。



散策の
ご参考に!

みやぐすく MIYAGUSUKU PROFILE 宮城プロフィール



イラスト 西銘 昌子

●人口(男) 518人
(女) 487人
合計 1,005人

●世帯数 330世帯
●面積 81.6 ㏊

(2010(平成22)年12月末現在)



発行：特定非営利活動法人 南風原平和ガイドの会
2012(平成24)年3月

住所：沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武257
南風原町立南風原文化センター内

電話・FAX：098-889-2533

平成23年度 沖縄県雇用再生特別事業「シマじまガイド事業」

表紙：宮城公民館ホールの繪紙

特定非営利活動法人

南風原平和ガイドの会

羽衣伝説と綱曳きの
Miyagusuku
宮城

天女が残した 羽衣伝説



宮城公園の壁画

今から300年も昔のこと、宮城には大国子（デーコクシー）という人が住んでいたそうだ。

ある日のこと、大国子が野良仕事の帰り、どこからともなく大変いい匂いがただよってきた。不思議に思っあたりを見まわすと、ウスクガーで美しい女の人が長い髪を洗っていた。あんまり美しいのでしばらく見とれていたが、やがて木の枝にかかっているきれいな衣に気がついた。大国子はこっそり近づいてその衣を盗み、大急ぎで家に持って帰り、高倉に隠してしまった。

大国子がウスクガーへ戻ると、女はしくしく泣いていた。声をかけると、「髪を洗っている間に着物がなくなってしまったのです。着物がなくては家に帰れません。」と泣きながら言った。大国子が「それでは着物が見つかるまで私の着物を着ていなさい。私の家はすぐ近くだからそこで休んでいなさい。」と誘った。その後二人は仲良く暮らし、子どもが生まれたそうだ。

ある日女は子どもたちが歌っている子守唄を聞いて羽衣が隠してある場所を知った。羽衣を見つけて着ると、ふわっと空に舞い上がり、どんどん遠ざかり、しまいには小さくなっていった。それを見た子どもたちや村人たちは「くまどおー！くまどおー！」（ここだよ、ここだよ）と叫びながら追いかけた。女の姿は与那原の久場塘で消えたそうだ。

ウスクガーには今でも女のジーフアー（かんざし）が落ちてしていると伝えられている。



久場塘(与那原)

「ふるさとの民話・南風原町 第2集」より

みやぐすくんちの 宮城人が燃える！ 綱曳き



旧暦6月15日のウマチー綱はワラビ綱ともいわれました。昔は稲の結実を祈って6月14日まで太鼓や三線など鳴らすことを禁止されていまし

た。稲の刈り取りが終わったこの日はいっせいに太鼓や鉦鼓、三線を打ち鳴らして豊作を祝い、子ども達と一緒に綱を曳き合いました。

旧暦6月26日のウフジナ（大綱）はウファチ綱ともよばれ、次の稲作のための雨乞いと豊作を祈願します。大綱、諸人綱とあるように、村人総出で曳き合い、他のムラの人々も参加できます。

綱は二回曳かれます。初回が本勝負で、二回目は最初に負けた方に勝ちを譲ります。戦前は本勝負で西の雌綱が勝利すると次の年はユガフー（世果報）に、東の雄綱が勝つと豊作になるといわれ、年占いの意味もこめられていました。



改善センターの前の中道（ナカミチ）を境に東西に分かれます。東（アガリ）が雄綱、西（イリ）が雌綱です。分家した次男、三男は親元側につき、結婚した女性は嫁ぎ先側につくのがならわしです。

綱曳きの運営費（酒代・サキヌシルー）は、若者衆の中の小頭が家々を回って集めました。80年代までは、綱曳きの後、頭と小頭はムラヤーに泊り込んで夜警をするとともに、翌朝早くからムラをまわってサキヌシルーを徴収したそうです。頭と小頭は毎年、次の世代へ引き継がれます。

1 宮城公園 (みやぐすくこうえん)



アーチ橋



展望台

遊歩道、テニスコート、野球場、ストレッチや筋トレの健康器具、遊具などがある広～い公園に、遠くからも子どもたちが遊びに来ます。垂直に近い迫力満点の滑り台は大人気で、休日には賑やかな歓声が聞こえます。

展望台から宮城全体が見渡せ、那覇空港自動車道のアーチ橋ものぞめます。



滑り台

迫力満点!

2 御願毛 (ウガンモー)

三本の松の木があったのでミーチマーチュ(三本松)とも呼ばれています。松の根元の二つの香炉は、一つは首里弁ヶ嶽のお通し、もう一つは糸満市大里の南山城に向けられています。戦前はノロを中心に祈願をする大事な拝所でした。

戦前の松の木は焼け、現在新しい松が成長しています。



3 御宿井 (ウスクガー)、ウミチムン、大国 (デーコク)



ウスクガー



デーコク

「天女降臨伝説」で知られるウスクガー。そこに下りた天女をめぐると伝承される旧家デーコク跡には、火神と神棚があります。またデーコクシー(大国子)ゆかりのカマド跡はウミチムンと呼ばれ、拝所になっています。

※ロマンチックな羽衣伝説の詳しいお話は後ろのページに。

7 ムラヤー



ムラヤーの鐘

ムラヤー(旧公民館)の鐘は戦後しばらくの間、集会のお知らせ等に使用されていました。現在は、毎年恒例の綱曳きの合図の鐘として使用されています。



力石・鉄棒

ムラヤーの前の広場は昔は青年たちが集まり、鉄棒や力石で力自慢、腕自慢する場所でした。3個あった力石ですが、今は1個しか残っていません。



4 ノロ殿内、イーヌウタキ、アガリヌウタキ



ノロ殿内

廃藩置県後、ノロ制度は姿を消しましたが、宮城は戦後もしばらくノロがムラの祭祀を取り仕切りました。ノロ殿内(ヌンドウチ)には火神と香炉が安置されています。丘の上の上之御嶽(イーヌウタキ)の祠(ほこら)には透明の玉が納め

てあるといわれています。東之御嶽(アガリヌウタキ)は古井戸や古墓もあり、大切に拝まれています。



6 綱曳き

旧暦6月15日のウマチー綱と旧暦6月26日のウフジナ(大綱)がおこなわれています。

青年会を終えた若者衆(ワカムンジュー)が主体となります。その中からカシラ(頭)6人とヒサグラー(小頭)6人が中心となってすすめます。

※詳しくは後ろのページを見てね。

5 イェーヌミー



集落の端の緑の小径を登っていく途中にあります。今帰仁へのお通しの拝所です。

はごろも つなひ
羽衣伝説と綱曳きの

宮城 散歩道

戦前はあちらこちらにクムイ(池)やカー(井戸)があり、水の豊かな宮城。拝所も多く、行事のたびに人々は手を合わせました。その一つが、天女も降りてきたという羽衣伝説のウスクガー。天女が愛した、いにしえのムラの面影が残ります。



イラスト 西銘 昌子